

ベ議会だより つかい

第111号

2024年11月



子どもたちの多様な体験と経験が地域の未来を創る
(別海高等学校吹奏楽部 第38回定期演奏会)

特集

子育てママ・別海高生との意見交換会… 2

少子化時代に変化を求められる学校部活動の在り方……………	4
人とつながる 未来につながる ～健康で自分らしく暮らしたい…	5
ホタテウロを含む水産物系副産物の再資源化に光明……………	6
議員活動調査の開始と視察……………	7
議員研修会報告・意見書の採択……………	8
一般質問(田村・伊勢・市川・中村・高橋・横田の6議員) ……	9

シリーズ 町民に聞きました

若い世代の意見に耳を傾けていきたい、
子ども中心の政策を!! …12



北海道別海町議会

意見交換会

子育てママ

&

福祉医療常任委員会



病児保育は手続きが多くて使いづらい
対象年齢を小学校低学年までにしてほしい

抽選で兄弟がバラバラの園に通うとなると送迎が大変！

保育園入園の抽選が子どもにとって精神的に辛い

児童館の学童受け入れ時間を有料や事前受付でもいいので延長して

育児休暇明け職場復帰後の慣らし保育は有給休暇や欠勤で対応している保育料が別に発生してもいいので職場復帰前に慣らし保育ができないか

児童デイサービスセンター「にっこ」とにエアコンをつけて

子育て全般のワンストップ相談窓口を！

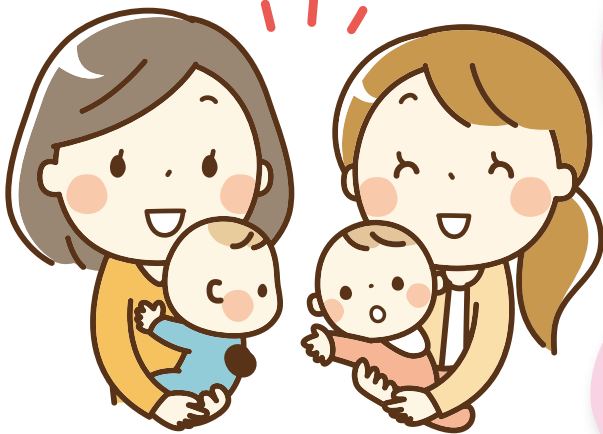
スワールバスを活用して児童館のない地域からも利用したい

小児科はネット予約に

発達・特別支援として専門的な運動機能療育を体育館などでやってほしいな

曜日や日指定でもいいのか
役場に託児機能

きいて！



委員長 外山 浩司



現状の子育て支援には、何をプラスしていけばいいのか、どこを変えればいいのかなど、忌憚のない意見をいただく貴重な機会となりました。聴くだけでは終わらせない！声をカタチにして動く！

これが議員16名の思いです。

ました。寄せられた意見を協議し、今後の政策立案に活かします。
の議会だよりで報告していきます。



別海高生

&

総務文教常任委員会

～よりよい町をめざして 聴く⇒動く

今回は各委員会のテーマをさらに深掘りするため、『別海子育て応援スペースみるきっず』さんと『別海高等学校』に伺い、子育て真っ最中のお母さんと高校生にお話を伺ってきました。

多様な就職先がある
とUターンしたい

高齢者率が増えたとしても、自分たちの
力で町をなんとかしたい！

トイレの便座が冷たい

経験のある部活動の指導者を
充実させてほしい

人口が少ないのが魅力
経験を積んで戻って
きたい人もいる

学校外で学習に集中できる環境や
塾がほしい

寄宿舎を通るバス路線を改善
してほしい

教室にエアコンがほしい

きいて！



委員長 佐藤 初雄

別海町の未来のヒントを高校生からいくつも見つけることができました。別海町議会は、意見交換会がパフォーマンスにならないよう人と人を結びつける架け橋となります。議会は、これからさまざまな世代の声を町政に繋げる努力を続けていきます。

この他にもたくさんのご意見があり町への提言や委員会調査などを通じて、行政の対応や議会の方針など、今後

総務文教常任委員会の活動報告

担当所管 総務部・教育委員会など 委員長 佐藤 初雄 副委員長 田村 秀男 委員 戸田 憲悦・吉田 和行・市川 聖母

少子化時代に変化を求められる 学校部活動の在り方

当委員会では、学校部活動における地域移行について調査しています。

移行への全体像

国から令和4年にガイドラインが示されました。

●生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保すること

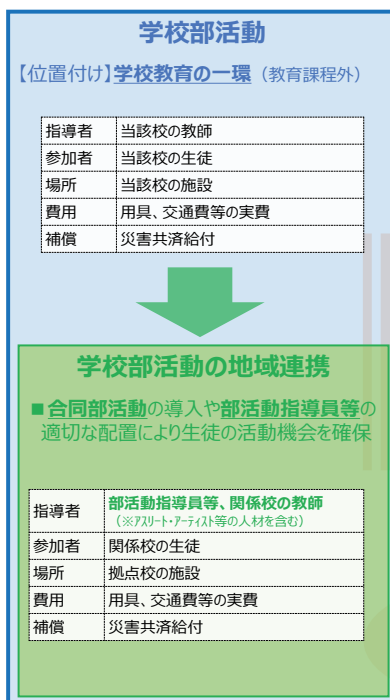
●少子化の中でも、将来にわたり、生徒にとって望ましい環境を整備すること

●地域の実情に応じ、部活動の最適化を図り、体験格差を解消すること

以上のことを目指すものと示されています。

(下図参照)

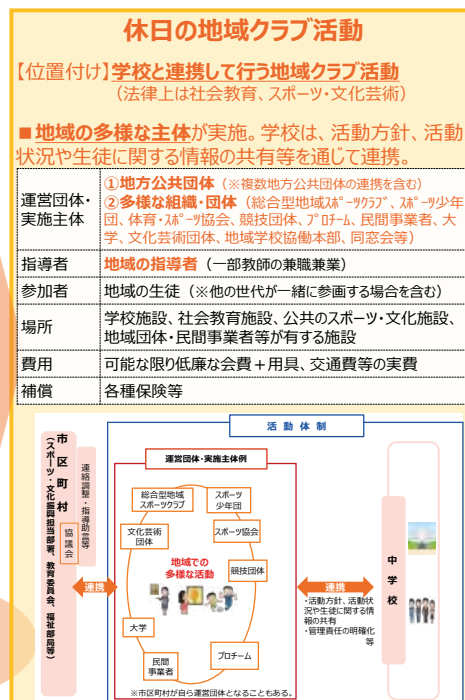
学校部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行の全体像（イメージ）



■少子化の中、持続可能な体制にする必要
（学校や地域によっては存続が厳しい）

■地域の実情に応じた段階的な体制整備

地域の実情に応じ、
当面は併存



文化庁ホームページより

生徒・教員・保護者へのアンケートを7月に実施

結果の概要は、85%の生徒が部活動や学校外のクラブに所属し、現状に不満は少なく、楽しむ目的の活動ならやってみたいとの声も多かった。

保護者は、経済的な負担増加を危惧する声が多かった。教員からは、指導者として関わりたい回答が一部あった。

しかし、時間的・精神的負担、専門的な指導ができないため、半数以上は関わりたくない結果でした。

まとめ

学校部活動、地域クラブ活動の在り方が今後変わっていくかなければ、子どもたちの活動・体験の場が減っていくことは必至です。

環境整備、協議会の設置など行政の役割がしっかり機能して行われていくか、今後も注視していききたいと思います。

福祉医療常任委員会の活動報告

担当所管 福祉部・保健生活部・別海病院など 委員長 外山 浩司 副委員長 宮越 正人 委員 中村 忠士・小椋 哲也・高橋眞結美

人とつながる 未来につながる
健康で自分らしく暮らしたい

令和6年3月に「別海町高

齢者保健福祉計画及び第9期
介護保険事業計画」が作成さ
れました。

高齢者が尊厳を保ち、健康
で生きがいを持てる、つな
がりのある地域社会の構築に向
けて事業が進められています。

地域連携による高齢者の 移動手段確保対策の検討

アンケートの結果、6割の
人が地域づくりへの協力をし
てもよい、4割がお世話役を
やってもよいと考えている状
況でした。

一方で、要介護者が在宅生
活に必要と感じる支援では、
「移送サービス（介護・福祉
タクシーなど）」27%、「外出
同行（通院・買物など）」
24%と外出支援への要望が多

くありました。

今後の事業の方向性とし
て、広大な町内の移動・交通
（高齢者の足）問題に、本人
の希望や実情に合わせた移動
手段を確保します。

バス停や決められた集合場
所へ行けない人の支援拡大を
進めています。

その方策として、地域住民
から「協力員」を募り、自家
用車を使用します。

利用希望者と協力員を登録
制にして、町がマッチングを
行います。

シルバー人材登録制度の創
設も視野に入れ、検討中です。

配食サービス

この事業は、定期的にバラ
ンスの取れた食事を配食し、
安否確認などを行っています。

現在、町から委託を受けた
別海町社会福祉協議会では事
務所を中心に、半径2^{キロ}以内
の別海市街地区を担当。

また、JA道東あさひでは
西春別駅前、西春別、大成、
泉川、上春別、中西別の一部
地域で実施しています。

令和5年度は、104名の
登録があり、97名が利用して
いました。

広大な本町では、配達時間
と距離が大きな課題となっ
ていますが、提供拡大に向け
て検討をしています。

ふれあい・いきいきサロン

外出機会の少ない高齢者や
障がい者などが、気軽に集ま
り、交流を通して生きがいづ
くりや機能の維持と向上を図
る場として、町内3カ所で実
施されています。

令和5年度は、延べ410
日間開設され、4013人が利
用していますが、移動の確保
が課題となっています。

まとめ

高齢化が進む中で、高齢者
のライフスタイルや生活意識
を把握しながら、地域や個人
の実情に応じた事業などが進
められています。

本町の高齢化率は、令和4
年10月現在、29%と上昇を続
けています。

今後は、医療と介護の複合
的な支援の必要な高齢者の増
加が予想されます。

高齢者が、可能な限り住み
慣れた地域で生活していける
よう、医療・介護・生活支援
などを確保し、地域の実情に
応じた深化・推進の必要が課
題となっています。



誕生会でボッチャを楽しむ元気な皆さん
(中春別春寿会)

産業建設常任委員会の活動報告

担当所管 産業振興部・建設水道部など 委員長 今西 和雄 副委員長 横田 保江 委員 松原 政勝・貞宗 拓雄・伊勢 徹

ホタテウロを含む水産物系 副産物の再資源化に光明

水産系副産物再資源化施設は、水産業から出るホタテのウロやヒトデ、加工かすなどを堆肥化する施設として、平成16年から稼働しています。

当初は順調に運営されていましたが、現在、施設にはホタテウロを原料とした堆肥の仕掛け品が約3900トも不良在庫されている状況です。

以前は堆肥化することで製品となっていました。重金属（カドミウム）を含むホタテウロを原料とした堆肥が売れにくくなったことで、大量の不良在庫となっています。

このような状況を受けて、令和3年12月からはホタテウロの受け入れを停止しています。

施設でのホタテウロの安定処理に向けて、令和4年度から不良在庫の焼却処分が行われています。

しかし、水分を多く含む仕掛け品もあり、焼却が思うように進んでいない状況でした。

そこで、以前からホタテウロのカドミウム分離処分の研究に取り組んでいた町内事業者の(株)リプロと、今年度から仕掛け品の処分について業務委託契約を結んでいます。



試験圃場でカドミウムの除去実験を行っている

また、今後のホタテウロの安定処理に向けても研究の契約を締結しています。

当委員会は、(株)リプロの行っている仕掛け品処分場の現地視察を行いました。

処分場は離農した牧場の牛舎などを活用したもので、バンガーサイロを利用してカドミウムなどの水溶分離を行っています。

カドミウムを含む排水はため池で処理され、カドミウムなどの抜けた堆肥仕掛け品は、土壌改良材として活用されます。

今年度は、(株)リプロで千トの処分を計画し、300トが焼却処分となる予定です。

また、処分場の隣接地ではホタテウロの安定処理に向けた研究も行われていました。

農水省が推奨する農耕地土壌のカドミウム除去方法である「ファイトレメディエーション」について、デントコーンや牧草、ソルガムなど16種を用いて試験栽培が行われていました。

まとめ

ホタテウロの受け入れを停止してから、水産業者に大きな負担がかかっていましたが、ようやく安定処理に向けて明るい兆しが見えてきました。

今後、委員会としても、仕掛け品の処分状況とホタテウロの安定処理に向けた取り組みに注視していきます。



尾岱沼から運んできた仕掛け品をストックしている

議員定数等調査特別委員会の活動報告

委員長 松原 政勝 副委員長 田村 秀男 委員 中村 忠士・今西 和雄・小椋 哲也・高橋眞結美・吉田 和行・市川 聖母

議員活動調査の開始と視察

3月の定例会で設置された本委員会は、6項目の協議事項を2年間にわたって調査します。現在まで6回の会議を開催し、議論を重ねてきました。

議員活動調査の開始

議員報酬および政務活動費の資料とするため、7月から1年間、各議員が毎日の議員活動を記録、月末の提出がスタートしました。

議員活動とは？

「議会活動に付随する用務」
「議会選出の公職等の用務」
「個人活動」「相談・陳情」
「公務以外の来賓」
※政党活動、選挙活動、後援会活動、私人としての活動は除外。

〈調査項目〉

- ①議員定数に関する事項
- ②議員報酬に関する事項
- ③常任委員会の委員会数や所管事項
- ④政務活動費
- ⑤議員のなり手不足に関する調査
- ⑥議会運営委員会の編成議論

常任委員会に 関する事項

「委員会内討議の充実のため、1委員会7名程度を確保すること」に決定しました。その7名を確保する手段として、

- 3常任委員会を2常任委員会に統合する案
- 3常任委員会を維持して複数所属とする案

の比較検討を行っています。また、並行して「広報・広聴常任委員会の編成や在り方」と「議会運営委員会の編成」についても協議を進めているところ です。

これらの構成に関する概ねの方向性が定まり、別海町議会としての機能を確保するための必要最低人数が導き出せる状況になれば、次に議員定数の議論に入る予定です。

視察調査と 地域めぐり懇談会

今年度の視察調査は、10月16日に浦幌町、17日に栗山町を視察しました。

浦幌町では、「議員のなり手不足への対応について」、栗山町では、「広報・広聴常任委員会の編成について」を調査しました。

時期は未定ですが、中標津町にも調査に伺う予定です。

また、11月25日・27日に議会が開催する「地域めぐり懇談会」でも議員定数や議員報酬について、町民の皆さまからご意見をいただきます。



浦幌町議会と記念撮影

本号から変わる「議会だより」

8月20日

ポールスター札幌
北海道じゃらん編集部

「議会報の企画と編集」および「議会だよりべつかい」のクリニック研修会が開かれました。

全道から町村議会の広報担当者が約500名参加し、別海町議会からは7名が出席しました。

研修会では、広報広聴研究所の代表理事・広報アドバイザーの金井茂樹氏が講演を行いました。

広報は、読者に読んでもらえる議会だよりの企画と編集を進め、見出しは読む見出しから見せる見出しへと変えていかなければなりません。

リード文を載せる際には、特集や委員会報告のリード文の方向性をまとめ、統一感を持たせることが重要です。

2日目には独自の研修として、『北海道じゃらん』吉原

元編集長にお話しを伺いました。

広報誌は、正しい情報を掲載し、読者目線で見やすさと意図が伝わりやすくなる工夫をすることが重要です。

参加した議員全員が、今後の議会だよりの作成に大きな希望を抱いたと感じました。今回の研修で学んだことを、議会だよりに反映したいと思える有意義な研修会でした。



講師 金井茂樹氏を囲んで記念撮影

意見書を採択

第3回定例会では意見書が3件提出され、原案のとおり可決されました。

可決された意見書は、衆参議院議長、内閣総理大臣など関係機関へ送付しました。

義務教育の機会均等の確保と教育予算の確保・拡充を求める意見書

教科書の無償給与の堅持並びに学校施設費、就学援助費および教材費等の充実、部活動の地域移行に対する財政措置などを要望する。

提出者

佐藤 初雄



国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書

冬期交通における安全性の確保、通学路などの交通安全対策、無電柱化の推進などを要望する。

提出者

戸田 憲悦



巨大災害に備える危機管理対応の体制強化を求める意見書

復興と事前防災に取り組むことができる財政支援措置、気象防災アドバイザーの自治体への配置支援などを要望する。

提出者

佐藤 初雄





詳細はこちらからご覧になれます

議員6人による一般質問

質問

なぜ行政ポイント事業を 終了したのか？



たむらひでお
田村秀男議員

質問

令和3年4月から、町の事業に参加された方などを対象に、町民の「健康づくり」や「行政活動参加」のきっかけとなることを目的とし、行政ポイント事業が始まった。

別海町商工業振興協同組合が行う「COW-COWポイントカード」へポイントを付与する方法で事業が展開実施されていましたが、町民に周知なく令和5年度で事業を終了した。

横断的に英知を出し合いながら立案した施策が、いとも簡単に廃止されることには、疑問を感じる。

事業の成果や課題は、しっ

かり検証しているのか、終了するなら、検証結果を町民に示して、説明責任を果たすべきでは。

答弁

対象事業を所管する部署の8割以上が、「参加率の向上に繋がらず、事業効果を感じない」という評価をしている。

本事業の検証結果については、情報を整理して、速やかに公表する。

質問

課題は、引換券を発行する方法に問題があったのでは。

答弁

議員指摘のとおり、自らが引き換えに行く手間、ポイントを貯める魅力、ポイントのお得感などに課題があり、高い成果を得るまでには至らなかった。

実施期間は、コロナ禍の時期でもあり、浸透しなかった要因の一つだと考えている。

質問

幼稚園・保育園の給食費無償化や 費用負担軽減策は



いせと
伊勢徹議員

質問

幼稚園、保育園の給食費の無償化に係る給食提供体制の整理について、どのくらい進展しているのか。

答弁

西春別へき地保育園、上春別へき地保育園、上風連へき地保育園の3園は、来年度以降、給食センターを活用した提供が可能と判断した。

ただし、開始時期については協議していく。

質問

給食提供体制の整理や検討を進める上で、制度や施設設備、人員など、さまざまな部分で見えてきた課題もあると思うが、現時点において、具体的にどういった事項が実現に向けて支障なのか。

答弁

保育園側の配膳に係る人員の確保や、小中学校の長期休業期間中の提供方法など、詳細な調整が必要である。

質問

幼稚園、保育園の給食費の無償化を進める上で、諸課題などの精査が必要とのことだが、対応策として、例えば、給食センターから提供されている幼稚園・保育園の給食費は無償化とし、その他の園に通う家庭には、給食センターから提供されている給食費相当額を助成するなど、負担軽減を図ることは考えられないか。

答弁

近年の子育て支援策の状況から、現時点では実施を予定しないが、今後多様な方法で、人口減少対策につながるよう子育て支援策に取り組む。



議員6人による一般質問

質問 より愛される 別海病院になるためには？



いちかわ まりあ
市川聖母議員

患者家族の視点に 立った病院とは？

質問 プライバシー保護のため、患者の呼び出し方法を名前から番号に変える考えはないのか。

答弁 患者からの要望が少ないので、名前での呼び出し方法を変えるタイミングではないと考えている。

質問 ネット予約や自動精算機などの利便性の高いシステムを導入することは、とても有効だと思うが、このような考えはあるか。

答弁 予約システムや順番検索、呼び出し機能などのシ

ステムを導入している自治体病院も多いため、患者の利便性と導入による費用対効果を考慮し、導入の可否について調査し、進めていく。

質問 小児科受診時、子どものストレスが少なく待機できる仕掛けなど改善の考えはあるか。

答弁 新型コロナウイルスの流行もあり、キッズスペースの配置は早急には困難である。

町内会の今後について

質問 町内会の今後と役割は。

答弁 町内会加入率は77%を保持。ごみの管理、自主防災組織をはじめ、地域住民の生活に欠かせない多くの役割を担っている。

今後は、行政も町内会加入率の向上につながる支援を行っていく。

質問 ふるさと交流館の将来像は 町民の意見を聞いて



なかむらただし
中村忠士議員

質問 ふるさと交流館は、別海地区唯一の入浴施設であり必要な施設だ。入場者も増えてきている。

一方、管理経費は年間5千万円前後かかり、さらに補修費、整備費もかかる。

また、将来像については町民の中に多様な意見がある。将来像を決めるに当たっては、自治基本条例にある「情報共有」「町民参加と協働」という基本精神に則って方針決定をすべきと考えるが、どうか。

答弁 自治基本条例に沿った形で進めるというのはその通りだと思う。

情報を流し、いろいろな意見をいただきながら、構想を進めていきたいと考えている。

9月1日から30日の期間で、中・高生を含め全町民を対象とした観光施設に関するアンケートを実施している。

マイナ保険証がなくても 医療を受けられるか

質問 マイナ保険証のトラブルが相次いでいる。マイナ保険証の取得は任意だ。

マイナ保険証がなくても、これまでと同じように病院にかかることができるかと認識しているが、どうか。

答弁 マイナ保険証を取得しない方については、「資格確認書」が自動交付される仕組みとなっており、この資格確認書は、現行保険証と同じ役割であり、変わりはない。



詳細はこちらからご覧になれます

議員6人による一般質問

質問

防災における男女共同参画の 視点と避難所トイレ問題！



たかはし みゆみ
高橋眞結美議員

質問 防災運営の中心を担

える女性が少ない現状を踏ま
え、お聞きする。

別海町防災会議の女性委員
の割合は。

答弁 現在、防災会議委員
に女性はいない状況。

各機関へ女性委員の積極的
な推薦の協力をお願いしてい
るところ。

質問 避難所運営責任者へ
の女性の参画は。

答弁 各避難所に女性リー
ダー的な方はいない。

本年度、防災部局へ女性職
員を配置し、本町の防災施策
に女性の視点が反映できるよ
う対応しているところ。

質問 災害用簡易トイレの
備蓄の見直し状況は。

また、避難所のみではなく

必要とする家庭にも配給でき
るのか。

答弁 令和8年度までに必
要数を備蓄する。

必要があれば配給は可能。

質問 避難所のトイレ不足
に対応するため、各自治体が

明るくて清潔なトイレトレ
ーを常備し、災害が起きた
地域に駆け付けけるという趣旨
の「災害派遣トイレネット
ワークプロジェクト」への参
加を提案する。

答弁 プロジェクト参加も
方法の一つとして有効である
が、牽引等運転免許の課題も
ある。

災害関連死を防ぐため、同
等の機能を持つ移動可能な車
両トイレの導入も検討中であ
る。

質問

子宮頸がん予防ワクチンの キャッチアップ接種



よこた やすえ
横田保江議員

質問 キャッチアップ接種

対象者の人数と接種率は。

答弁 キャッチアップ接種
の対象者人数は512名。

質問 令和6年度のHPV
ワクチン定期接種対象者の人
数と接種率は。

答弁 令和6年度のHPV
ワクチン定期接種対象者は
307名で、7月末現在の
接種者は17名、接種率は5
%。

質問 町として、この接種
率の低さをどのように評価し
ているのか。

答弁 定期接種ということ
で、希望者が打つと言う形に
なり、また、ワクチン接種を

打つことに不安感を持って
いる方もいらっしゃる。

質問 キャッチアップ接種
対象者が、無料でワクチン接
種を受けられる期間は今年度
末までしかない。

1人でも多くの命を救うた
めにも、子宮頸がんのこと、
ワクチンのことを適切に判断
できるよう改めての情報発信
が必要では。

答弁 対象者512名に郵
送で個別周知の実施をしてい
る。

べつかい広報8月号に案内
記事、町のホームページにも
同様に掲載している。

※キャッチアップ接種とは

過去にHPVワクチンの接
種を合計3回受けていない女
性の方を対象に、あらためて
接種の機会を無料で提供する
もので、3回打ち終わるには
6カ月の期間が必要。

若い世代の意見に耳を傾けていきたい、子ども中心の政策を!!

総務文教常任委員会と別海高校の生徒さんとの意見交換会、福祉医療常任委員会とみるきっずを利用するお母さんたちとの意見交換会を行いました。その後の感想を校長先生とみるきっずの方にお聞きました。

北海道別海高等学校



北海道別海高等学校
織井 巨 校長先生

広報委員 テーマの中に「Uターンしたいと思う別海町の環境について」とありますが、どう思いますか。

校長先生 子どもたちが、どうしたら別海町に残るか、今後の別海町にとってとても大事なことです。生徒たちからは「別海町に残りたい」という声は聞こえてきますが、でも仕事する場がないと言っています。

広報委員 そうです、あまりないですね。入るとしたら、大きく安定したところになりがちです。

校長先生 生徒たちには、もっと新しいことに挑戦し起業してもらいたいです。いろんなことを経験することは本当に大切です。海外にもぜひ行って見て来てほしいです。町からも、そういったところに補助してもらえたらうれしいですね。子どもにもっと投資をする子育てをしてもらいたいです。

別海子育て応援スペースみるきっず

広報委員 子育て中のお母さんと、議会が直接意見交換することをどう思いますか。

坂川さん 普段、お母さんから不満とかいろいろお話を聞いていましたけど、たくさんの方々に来てくれていたので、今回は町議さんがしっかり話を聞

いてくれるという要素で集まってくれたと思います。『聞いてくれるのであれば思いを伝えたい』という方々がこんなにもいたことだと思えます。それだけでも意味のあることだと思えます。

広報委員 今まで地域めぐり懇談会を開催していましたが、平日の昼間なので若い方たちは仕事ですからなかなか来れませんよね。これからは、小さな集まりの中に議員が足を運んでいきたいと思っています。

坂川さん お母さんたちは、議会がどういうふうにしたら動いてもらえるのか、どう変わるのか知りたいと思います。そして、別海町にずっと住んでもらえるように、子育て支援を頑張ってもらいたいです。今あるサービスを無償化するとか、使いやすいサービスにしてみようという感じです。

広報委員 最近始まった産後ケアはどうですか。

坂川さん 産後ケアは最近始まったばかりですが、すでに話題になっていて、どう使ったら一番メリットがあるのかなどと楽しみながら話しています。なのでこの政策はすごく活きてると思います。また、『24時間の電話サービスも感謝しています』という声もあります。

広報委員 町の制度を作る職員が、

お母さんたちの本当に素直な感想の情報収集できればすごくいいと思う。どういう政策を作れば助かるのか、また生活の質が上がるのかなど聞いてほしいですね。



別海子育て応援スペースみるきっず
坂川 理沙 さん

令和6年第4回定例会は**12月9日(月)～12月13日(金)**を予定しています

一般質問の傍聴にきてみませんか？

一般質問日 **12月10日(火)・11日(水)** 予定

議会の会議は、誰でも傍聴できますが、体調不良の方は傍聴をご遠慮いただく場合がありますのでご了承ください。



別海町議会
YouTubeチャンネル



【お詫びと訂正】

議会だより110号の4ページ「こども広場ひかり」の写真に対する説明に誤りがありました。

(誤) 子どもの完全送迎をしている
(正) 別海市街地およびその周辺の送迎を行なっている。(事前申込制)
ここにお詫びして訂正いたします。

11月からは自転車のながら運転、酒気帯び運転は罰則化です！